

川崎市青少年科学館進行管理・評価の概要と目的

川崎市青少年科学館(以下、「科学館」と言う。)は、川崎市青少年科学館運営基本計画(以下、「運営基本計画」と言う。)に基づき、運営基本計画で定めた科学館の理念を達成するために進行管理・評価を行い、課題や成果の共有と、組織的・継続的な改善を進めます。また、評価の公表によって事業の客観性・透明性を確保し、市民・利用者への説明責任を果たします。

科学館の評価体制

科学館では、進行管理・評価の導入にあたり、館職員による自己評価と諮問機関である青少年科学館専門部会(以下、「専門部会」)による評価を併用します。科学館が自ら目標を設定し、達成状況について分析して、成果と課題を明らかにするとともに、その妥当性を専門部会による客観的な視点から検証し、事業や運営に関しての具体的な改善方策などの助言を受けます。

※これまでの「青少年科学館協議会」は、川崎市の全庁的な付属機関の見直しに伴い、平成28年度より「川崎市社会教育委員会議」の「専門部会」に位置づけられることになりました。諮問機関としての機能はこれまでの「協議会」と変更ありません。

評価区分

以下の通り評価区分・達成度区分を設けます。

＜評価区分＞

区分	内容
A	<u>目標に向かって順調に課題解決が図られているもの</u> ●目標の実現を阻害するような新たな課題や残された課題等はなく、目標に向かって順調に進捗している場合
B	<u>目標に向かって一定の成果が上がっているもの</u> ●新たな課題や残された課題等があるが、目標の実現に向けて今後も現在の取組を継続していくことで対応できる場合
C	<u>課題解決が不十分で取組の改善が必要なもの</u> ●新たな課題や残された課題等があり、目標の実現に向けて、計画の見直しや取り組みの改善が必要な場合
D	<u>課題解決が図れていないため、抜本的な見直しが必要なもの</u> ●前提としていた諸条件が大きく変化し、取り組み内容の抜本的な見直しを行わなければ目標の実現が困難な場合

＜達成度区分＞

区分	内容
5	<u>目標を大きく上回って達成</u> ・目標に明記した内容よりも相当高い水準であった。 ・目標に明記した数値を大きく上回った。
4	<u>目標を上回って達成</u> ・目標に明記した期日通り達成し、明記した内容よりも高い水準であった。 ・目標に明記した数値を上回った。
3	<u>目標をほぼ達成</u> ・目標に明記した期日、内容どおりに達成した。 ・目標に明記した数値とほぼ同じであった。 ・おおむね適正に処理し、業務遂行に支障がなかった。
2	<u>目標を下回った</u> ・目標に明記した内容・期日のいずれかが達成されなかった。 ・目標に明記した数値を下回った。
1	<u>目標を大きく下回った</u> ・目標に明記した内容・期日のいずれも達成されなかった。 ・目標に明記した数値を大きく下回った。

川崎市青少年科学館 平成29年度事業評価一覧
(川崎市社会教育委員会議 青少年科学館専門部会)

項 目		達成度 自己評価	専門部会 総合評価
展示事業	自然展示	3	B
	天文展示	4	A
	科学展示	3	B
教育普及事業	自然体験	3	B
	天文体験	3	A
	科学体験	3	A
調査研究事業	自然分野に関する調査研究	4	A
	天文分野に関する調査研究	3	B
	科学教育に関する調査研究	3	B
収集保存事業	自然資料の収集と保存・管理	4	A
	天文資料の収集と保存・管理	3	B
	科学教育についての資料の保存・管理	3	B
ネットワーク事業	展示・企画ネットワーク	3	B
	調査研究・収集保存ネットワーク	3	B
	学習支援ネットワーク	3	B
	地域振興ネットワーク	3	B
	生田緑地内ネットワーク	3	B
管理運営	管理業務の実施状況	3	B
	組織体制	3	B
	危機管理	3	B
	施設の利活用(広報計画)	3	B
	施設の利活用(科学館の魅力を高めるサービス展開)	3	B
	施設の利活用(多様な利用者への配慮)	3	B
	進行管理	3	B